

家庭菜園相談室

今月のテーマ

ネギを作ってみよう

「根深ネギは軟白の長さが腕の見せ所」「葉ネギは小苗から使えて手間いらず」

ネギは、体を温め疲労回復に良いとされ、薬用植物として古くから栽培されています。寒さにあうと甘みが一層増して美味しくなります。畑に植えておけばいつでも収穫できます。



図1 作型目安

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ネギ	春播き	●-----	●-----		▲-----			★-----	★-----	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	
葉ネギ	秋播き (翌年収穫)	(翌年植付け) ▲-----	▲-----	★-----				★-----	●-----			
						■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	

● 播種 ▲ 植付け ★ 追肥・土寄せ ■ 収穫

栽培のポイント

根深ネギは、耕土が深い土地に適します。一般的に関東では根深ネギ、関西では葉ネギを好む傾向があります。葉ネギは、土寄せの手間が根深ネギほどかからず家庭菜園向きです。耕土が浅いところでも簡単に作れます。秋にタネを播き、春に移植、夏に植え付ける作型もあります。苗づくりは手間がかかるので、購入苗や干しネギを植えるのもよいでしょう。

種・畑の準備

一晩種を水に浸す。市販の種まき用の培養土を使って、200穴セルトレーなどに1~2粒播く。光があたると発芽しにくいので、覆土はしっかりとす。育苗期間が長いので葉色が薄くなったら液体肥料を規定倍率に薄めて週1回、水やりを兼ねて施す。ネギは育苗期間が長いので発根したらセルトレーごと畑に置いてよい。定植の2週間前に苦土石灰120g/m²、完熟堆肥3kg/m²を施し、よく耕しておく。1週間前には、化成肥料(8-8-8) 100g/m²を施し土とよく混ぜる。

植え溝は、根深ネギ(幅10cm深さ20cm) 葉ネギ(幅10cm深さ5cm)とし、苗を植え付ける側の土は、スコップを使って垂直に掘り、ネギの下部が曲がらないように置く。

栽植密度: 本葉が5~6枚の苗が定植適期。根深ネギは、溝に5cm間隔に1本ずつ壁に垂直に植える。葉ネギは、溝に5cm間隔に3~5本ずつ壁に垂直に植える。根元に2cm程度土をかけ、足で踏みつけて倒れないようにする。

追肥・中耕・土寄せ: 植付け後1カ月程したら、化成肥料(8-8-8) 50g/m²を溝にまき、まわりの表土を軽く砕いて根元に寄せる。

根深ネギの追肥と土寄せは、9月になって葉鞘(葉が茎のようになった部分)が伸びるのに合わせて月2回程度行い、最後土寄せは収穫の半月から1カ月前を目安に行う。根深ネギは葉鞘の軟白した部分を食べるので、株元に土を盛り上げるように土寄せをする(白い部分が約40%になるように)。

※葉の分岐点まで土をかけてしまうとネギの成長が止まるので、葉鞘までにとどめる。葉ネギの追肥と土寄せは、2回ほど行う。

防除: 秋になるとネギアザミウマやネギハモグリバエが食害するので定期的に防除するか、ネットなどで覆うとよい。

収穫: 根深ネギは、葉鞘部分が白くなったら掘り起こして収穫する。

葉ネギは、小さいうちから利用できるが、草丈50cmくらいに成長したら抜き取り収穫する。

株の片側をスコップなどで掘り、根元を持って横に倒すように引き抜くと簡単に収穫できる。

葉ネギは根深ネギより日持ちが悪いので、必要な分だけ収穫する。葉鞘を少し残して収穫すると、葉が伸びてきて再度収穫できる。

干しネギの利用: 7~8月に抜き取ったネギを干して、1~2週間ほど乾かしたものを「干しネギ」といいます。ファーマーズマーケットやホームセンターなどで購入でき、干しネギを使うと短期間で収穫できます。枯れた葉を切り落として、育苗した苗と同様に植え付けます。取り残しのネギを自分で干しても作れます。